

兵装換装

五

1008

軍令部長



次長



第一班



第三班



中島

平賀



總政大部長



第一部長



第三部長

部員



會計課長



横越、雪洗、河

25

副官 村藤

參事官

發行 二五

大臣 海

星

二月五日

起案

軍務局長



局員



次官



經理局長



局員



教育本部長



明治四十一年二月五日

訓令案

大臣

官房第三九八號

海軍

横鎮長官


兵器換装件

軍艦扶桑備砲四十五口径安式十二姆速射砲四門及四十口径安式十二姆速射砲六門ヲ軍艦志岐ニ換装方取計ラハシ右訓令ス

但し費用ハ軍事費造兵及修理費并ニ造兵修理費本年度已配件ヲ兼内支弁トス



光緒二十九年

先  
軍令部長 

次長 

第一班  
第二班  
第三班

第一部長



部員 

艦政本部長 

第三部長 






會計課長







副官 

參事官 

總務課長 

大臣

次官 

軍務局長 

局員 

經理局長 

主任局員









訓令案

明治四十一年三月六日

大臣

官房第八六二號

1011



横鎮司令長官

香取探海電燈換装之件

客軍六月官房第二四二六號ノニヲ以テ軍艦  
香取現装備七十五拇探海電燈四名ヲシツケルト  
或九十拇手働探海電燈四名ト換装ナリ吳鎮守  
府司令長官一及訓令置又昔訓令ヲ需本艦  
行動ノ都合ニ依リ右換装ナリ其府ニ於テ取計  
フヘシ

但書スル費用及工事方案取調ト申込  
許シ奉クヘシ

右川合ス

官房第八六二號ノ二

(英)

明治四十一年三月六日 大 臣





第一 部 冊

本件ニ  
関スル照後  
必ス不書  
番納ノ照  
アリカシ

二〇九

明治三十一年二月十四日

北支那軍海軍工廠長

男森片岡海軍艦政本部長殿



取採海電燈換装件

客年二月官房第ニ四二六號以テ軍艦鹿島取、鹿島採海電燈  
換装ノ件訓令相成居候ニ付、八軍艦鹿島ハ今西宮港寄泊  
ニ付其費用及工事方策等調査中ニテ不日申認許ラ度  
ベキ事煩中ニ有之候處存、於テ不遠致務ヲ解カレ本艦ハ  
本籍鎮守府ニ歸投ノ様及聞候ニ付テハ本件ノ工事ハ自然  
船本第 六〇三

毎 頁

竹管鎮并有<sup>三</sup>訓令換相成榎御承計想成度  
右照會<sup>ハ</sup>

(一)

軍令部長

次長

第一班  
第二班  
第三班

第一部長

部員

艦政部長

第三部長

會計課長

副官

參事官

大臣

次官

軍務局長

經理局長

四十月五月十九日起案

訓令案

軍艦香取及鹿島前後艦橋ニ現裝備

官房第二四二六號

七十五拇探海電燈四台ヲ「シツケルト」式九十拇  
手働探海電燈四台ト換装ヲ取計フヘシ  
但本工事ハ役務ニ差支ナキ時期ニ於テ施  
行シ母スル費用及工事ノ案取調ト申  
詔許ヲ受クヘシ

明治四十年五月廿七日 大臣

兵 鎮 長 官 印

備考 本文ニ要スル兵器ハ在庫ノモノヲ流用ノ旨

官房第二四二六號ノ二

軍艦 横鎮ハ 香取 舞鎮ハ 鹿島 現裝備七十五拇探

海電燈四台ヲ「シツケルト」式九十拇手働探海電

燈四台ト換装方別紙ニ通り吳鎮守府司令長

官二訓令以系其首の得

明治四十年五月廿七日 大佐

横及舞鏡長官

(久保田精)

海軍

1018

水雷

軍令部長

次長

第一班  
第二班

艦政本部長

第一部長  
第二部長  
第三部長  
第四部長  
會計課長

部員

大臣

副官

少

次官

經理局長

軍務局長

指令案

明治四十一年四月一日

大臣

官房第九六一號

1019



横廠第二號、一八上中驅逐艦奉月兵  
裝替、件認許ス

但シ費用ハ四十二年度經常費造兵及修理費

造船及修理費支弁トモ要求ヲ候ワテ配

付ス（加算書内）

保式旋回発射管及武式空柔壓操叩筒

ハ海軍艦政本部ヲシテ配給セシム

終

三三三



駝逐體鼻丹多裝替工百方板

別眉之通、形首露牙登射管、擲去之中央  
及後部、保才逐個登射管、括付ケ朱牙空  
氣壓摺印、計才空氣壓摺印、有ト摺替ス  
入費概算

一、腔首露牙登射管擲去費

金矢於百九於六解

工費

金於老回五於解

材料費

一、保才逐個登射管擲去費

金比百比於百七於六解

工費

金矢百比於百九於六解

材料費

一、保才空氣壓摺印為摺替費

毎  
庫

金七拾七圓六拾八錢

工費

金百六拾五圓零拾七錢零厘

材料費

工費計金百四拾零圓零拾錢

材料費計金四百七拾七圓六拾六錢零厘

附屬費金百七拾七圓六拾八錢

合計金九百四拾五圓六拾四錢零厘

工事日數 八十日

明治四十二年三月十九日

鐵道部海軍工廠建設部長種子田右八郎





皇日國卷五五号一極書

明治四十年十二月九日

神十 皇日 艦長

松本橋頭賀海軍工廠長殿

身倉改造請求書

三路式十号形旋回發射管

五門

中央上層板

四路式魚雷水雷

五個

右何と也新式駆逐艦全操吳式若くは保式發射管及魚雷水雷を改設を要す

理由 現在使用三路式魚雷水雷は吳式或は保式に比し劣悪な

ル故より發射管に於ては形を先端より鈍角形に造り長キラシテ之ヲ起伏せしむル其重量ナルコト五六人ヲ要シ之ヲ

艦

庫

曲折しりし水雷の装填の置ける其大部分は若射管外  
 に露出の既行中の水雷に大なる震動が及ぶと装調を度  
 し之の件ハレ置ける甲板上の運動が阻害し不復す又其後  
 射装置の管に撃発のしこり而かも保式如く射易ナラズ隨  
 テ撃發後心は妙ノヨリ水雷射出止、時間三秒方長き免  
 レカルラ以テ照準ヲラシテ其間呼吸ヲ公得セシムルコト困難ナ  
 リトス又、トリカフコト装置部、蓋ハ之ヲ止ムルニ大個ノ嚙子ヲ  
 以テレ毎發々射管口ヲ掃除スルニ一々此嚙子ヲ外シテトリカ  
 フコト取除カレカラス只々不復ナルニ至之レガ装腕ニ於テ  
 嚙子深挿は、多大ノ注意ヲ要ス魚形水雷、於テハ之レカ  
 深度ヲ整フルルニ一々頸部(頸部ハ海水ヲ充リシムルモノ)ヲ取外  
 カルヘカラスシテ突撃ノ時人等ヲ固ク絶對的不能ナリ  
 秘卷宣ハ氣室ノ前方ニありテ秘卷室ノ偏比ヲ方向樹立ニ

傳フルコシ子クラングロトハ、竟室ノ有長ニ亘ル等其内道  
 ス破、此細長ナルコトハ、當無シラ等其内道ノ離レ摩擦  
 シ自熱極解、運届内道ナラズ性、内道射ナルコトアリ、油  
 整固難ナルコトヲ、不愛油多シ、今ト止、數十回若射  
 ノ至、激ス、以用水雷何シモ不具、今ト止、其進行不地、強  
 ント、摩擦ス、カラス之、愛油、運カナル、依ル者ト思ハル  
 是等不、完全ナル水雷ヲ以テ、其具、弊害、亦記大、記、部、  
 記、之、如シ

五、露式十五吋、射管、固定、後射管  
 右、全、然、極、去、ス、ラ、要、ス

理由、艦首、後射管、ハ、射、海、軍、砲、艇、之、シ、ラ、操、用、セ、コ、ト、カ、ル  
 之、由、ラ、也、ル、具、全、用、之、能、テ、セ、シ、テ、定、論、ナ、ル、ト、信、不、疑、ヤ、所  
 記、如、ク、不、完、全、ナル、露、式、水、雷、ヲ、以、テ、ス、ラ、於、テ、只、カ、ル、各、用、也、

ナラズ之レハカ有リ却テ地ノ教育訓練ニ後ウケル悲アリ又  
少ク授課ナル所解ラ古事ニテ是ト授課ナラシムル後見

六、以テ身任操場内

古墨

右ノ先分任操場者、引渡ラ要ス

採用 親を備け、モノハカセラスナリ、或ニシテ幼才弱ク水雷ニ  
整然スル時間ヲ要ス、コト弱シク所業、百アトシテ整然スル  
下ニ引レト不可能ト云フモノナリ、受験ニ徹スルニ最モ良好ナリ  
状態ヲ作ラズ、且モ最初、二三本ノ或ハ、時間亦後ニ整然スル保ル  
トアルニ引継キ具以テ云々、且モ最モ早ニ所問目外ヲ要シ、余カモ百  
アトシテ整然スル不可能ニシテ、宜ク射撃ヲシ、勿論、亦時者、訓練  
已不為ニナリ、以テ先分指者、若クハ引渡ラ要ス



驅逐艦 奉月式空氣壓搾唧筒機換裝工事方按

旧唧筒附屬管ヲ取除キ別圖ノ通り換装ス

右工事ニ要スル工事費概算金左ノ如シ

金百貳拾四円九拾五錢

工費金參拾五円

内材料費金七拾四

附屬金拾九円九拾五錢

工事日数貳拾日間

右之通り

明治四十一年二月二十日

横須賀海軍工廠造機部長黒部 廣生 謹言

証

直



驅逐艦自月兵裝換ニ伴フ工事方案

一、別紙背面通り兵裝換工事ニ伴フ左記諸工事

ヲ施行ス

一、水雷格納所及頭部格納ニ伴フ工事

工費 金四百貳拾圓

材料費 金參百五拾圓

計金七百七拾圓

一、水雷運搬エレム及發射管座改造工事

工費 金貳百八拾圓

材料費 金參百拾五圓

計金五百九拾五圓

一、艦首發射管取付ニ伴フ工事

工費 金百四拾圓

材料費 金九拾五圓

計金貳百參拾五圓

一、空氣壓搾唧筒換装ニ伴フ工事

工費 金九拾五圓

材料費 金六拾五圓

計金百六拾圓

工費計金九百七拾圓

材料費計金七百九拾圓

附屬費金參百參拾四圓四拾錢



入費概算合計金貳千。九拾四圓四拾錢

工事日數

五拾日間

右之通、明治卅一年二月廿七日

横須賀海軍工廠造船部長福田馬之助

終

海軍

起案紙第一號

明治三十一年四月廿

日起案

起案者

印

五月三日發行

發行所

印

發行後起

案者捺印

印

印

印

印

提案

艦政本部長

第一部

高橋

大臣

次官

參事官

會計課

加藤

印

印

印

印

副官

第三部

田中

印

印

印

印

軍務局長

局員

印

經理局長

印

印

印

印

印

印

軍令部長

東郷

次長

印

第一班

印

印

印

印

印

指令案

明治四十一年四月十三日

大臣

橫廠第二號、三三上申軍艦周防備

發送番號

官房第一六七九號

二

海軍

紀位置変史、件認許ス

洋  
軍

1034

砲熕

香田

香田

参謀長 小京

参謀 津井

野崎

香田

横濱支四月二十三日

四月廿三日

日進達

横濱第一三三

大正十一年四月廿三日

海軍大臣

海軍大臣男爵齋藤 實殿

横濱海軍工廠長松本

横濱海軍工廠

軍艦周防備砲位置変更ノ件

一上甲板前部及将官室ニ備付クキ十二斤砲ヲ最上甲板ニ轉移スル事

本件別紙周防第二五席寫ノ通り周防艦長ヨリ意見提出ニ依リ調査候處必要ト認め候條変更方法認許相成度

右ノ如ク申ス

第三部長

別紙圖面出圖セムル席臺葉添

終

官房第一六七九號

海軍

品字四七五





周防第二五號

明治四十一年三月六日

周防艦長 仙頭武央

横須賀海軍工廠長 松本和殿

上甲板前部及將官室ニ備付クヘキ十二斤

砲ヲ最上甲板ニ變移スル件

上甲板第二區及將官室ハ十二斤砲ヲ備付クルトキハ前部

砲ニ在テハ六尹砲ノ射角及船体曲線ノ關係上其前方

ニ對スル射角不充分ナルヲ以テ之ヲ第一區ニ移ササルハ

カラス然ルトキハ在來ヨリ完備セル兵員用廁ヲ他ニ移

轉セシムルノ必要ヲ生シ從テ尠ナカラサル手數ヲ要シ且

ツコシートアンカーノ備付ヲ廢止セサル可ラザルニ至ル(本

海軍省

東京三浦印行

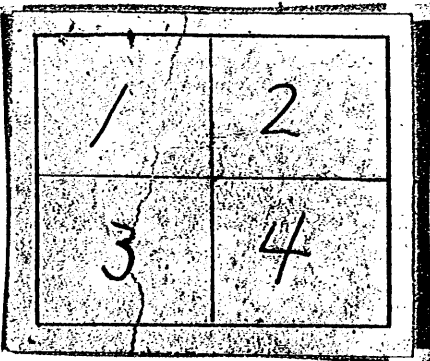
艦前甲板上にシフトアンカーヲ据へ置ク餘地ナシ(斯クノ  
如クミシテ尚ホ第一區ニ備付クルモ天候不良ノ場合ニ在  
テハ砲門ヲ開放スル事能ハスシテ該砲使用ノ機ヲ少  
カラシムノ不利アリ  
又後部砲ニ在テハ新ニ砲門ヲ擴張セサルヘカラサルノミナラ  
ス此工事ヲ施行スルモ尚ホ後方ニ對スル射角不充分ナ  
ル不利アリ而シテ後部ニ備付クヘキコマキシム砲二門ハ之ヲ  
將官室ニ移セハ在來ノ砲門ニ大工事ヲ加フルナク其  
儘使用シ得ルノ利アリ  
然ルニ艦ノ重心力之ヲ許スナレバ前後部砲共ニ別圖ノ  
如ク最上甲板ニ移サハ前記ノ不利ヲ避ケ砲臺指揮ノ  
統一ヲ得彈藥供給ニ便アルノミナラス通信装置ヲ簡  
單ナラシメ特ニ夜間水雷艇防禦ニ當テハ其位置高

キヲ以テ收得スル利益蓋シ大ナルヘシ  
右意見提出ス

終

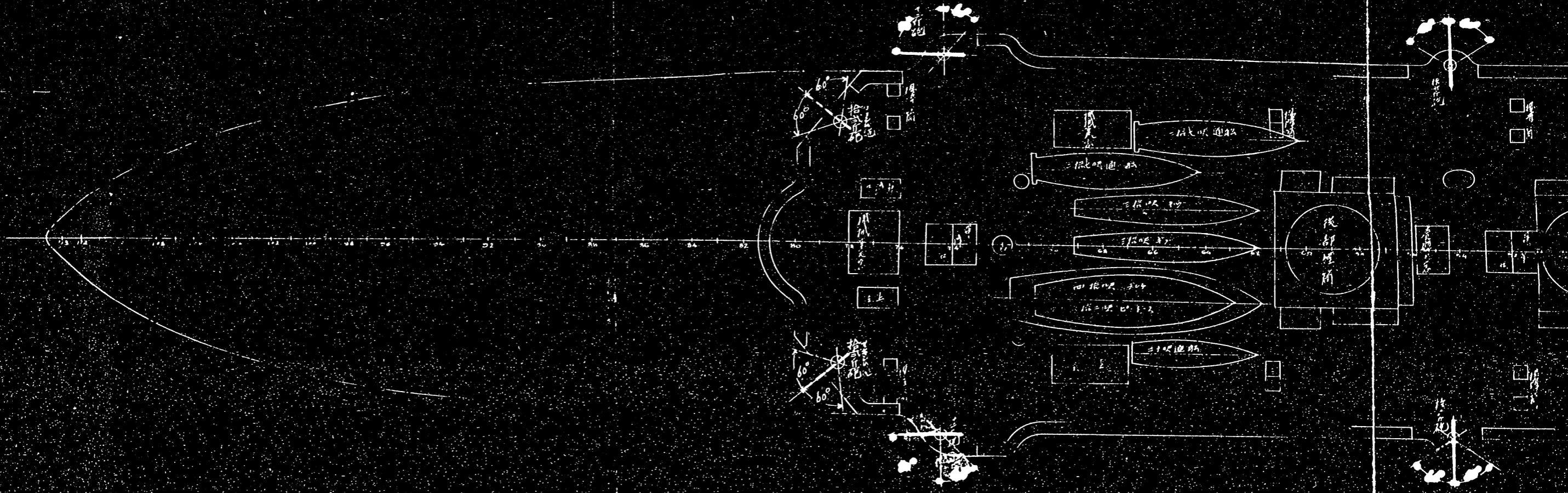
海軍

# 分割撮影ターゲット

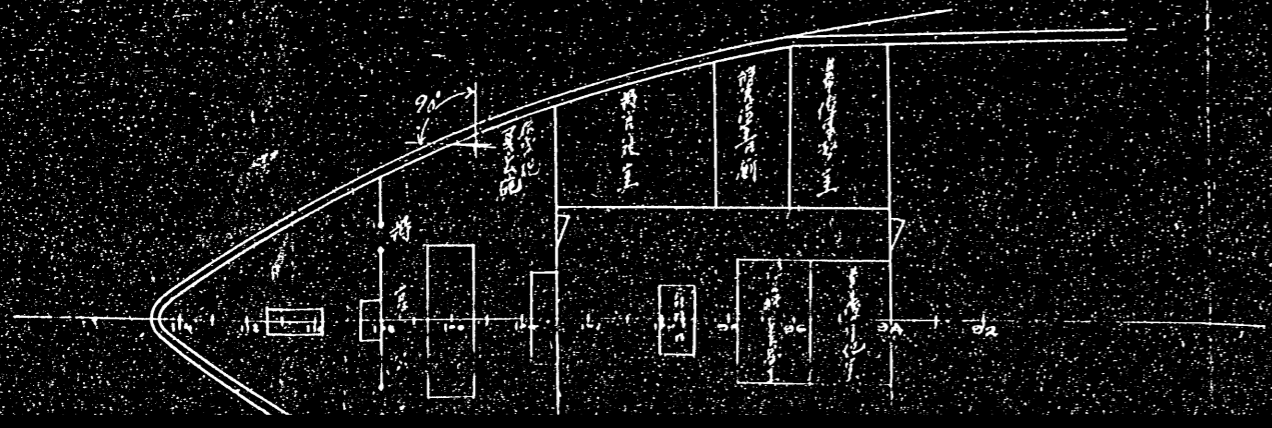
分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A 3 判 以 上 の た め
上記のとおり分割撮影した事を証明する。	

1039  
1040  
1041  
1042

# 最上甲板平面



# 中甲板平面



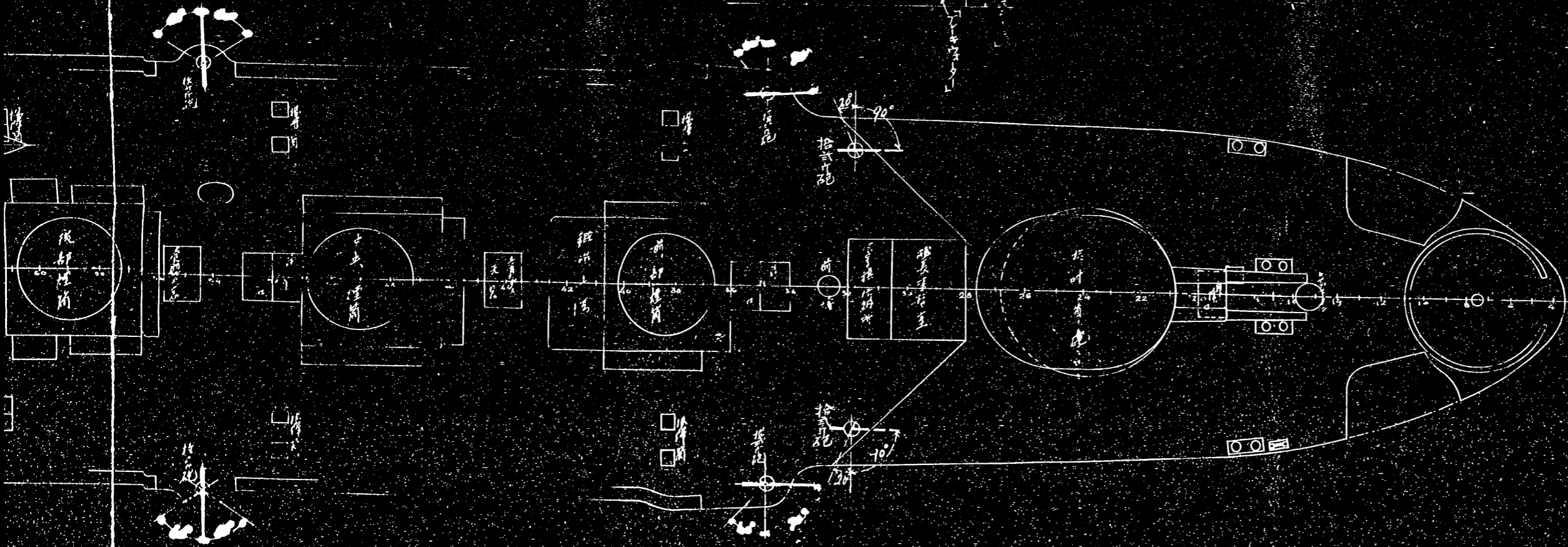
# 軍艦周防最上甲板平面圖

注意

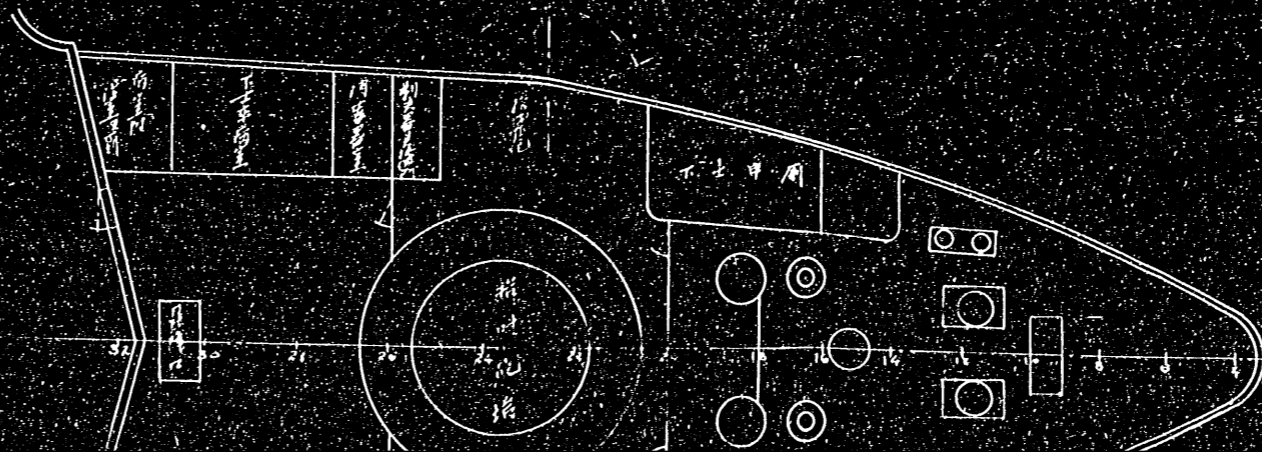
赤線、新設了示  
 赤線、位置變更  
 黄線、取除

八度拾六分、格時電天

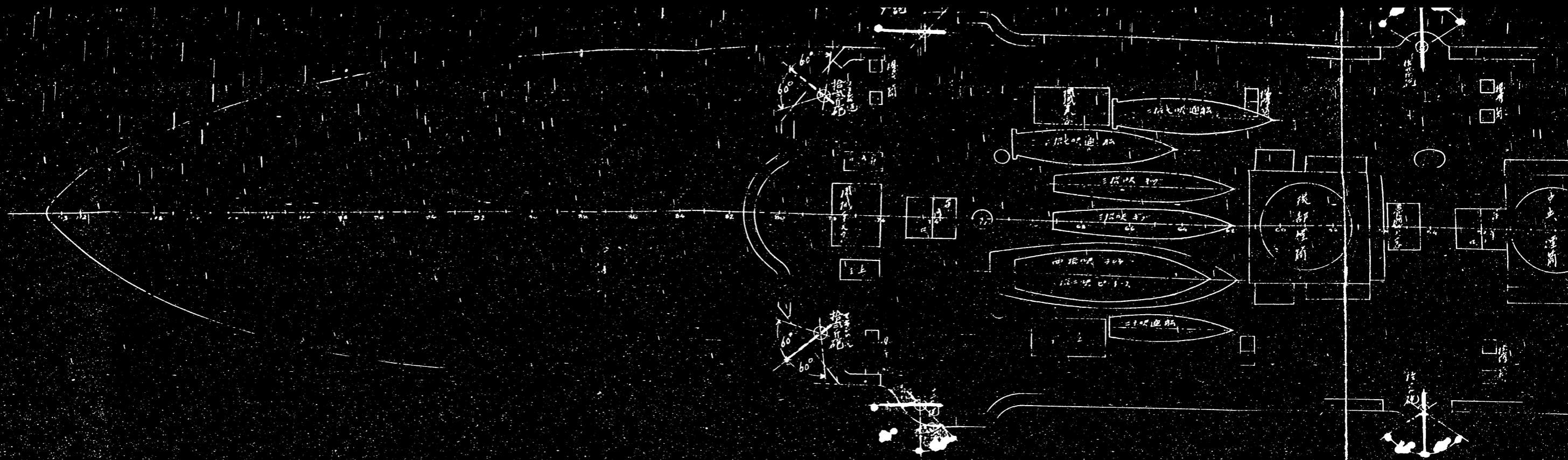
最上甲板平面



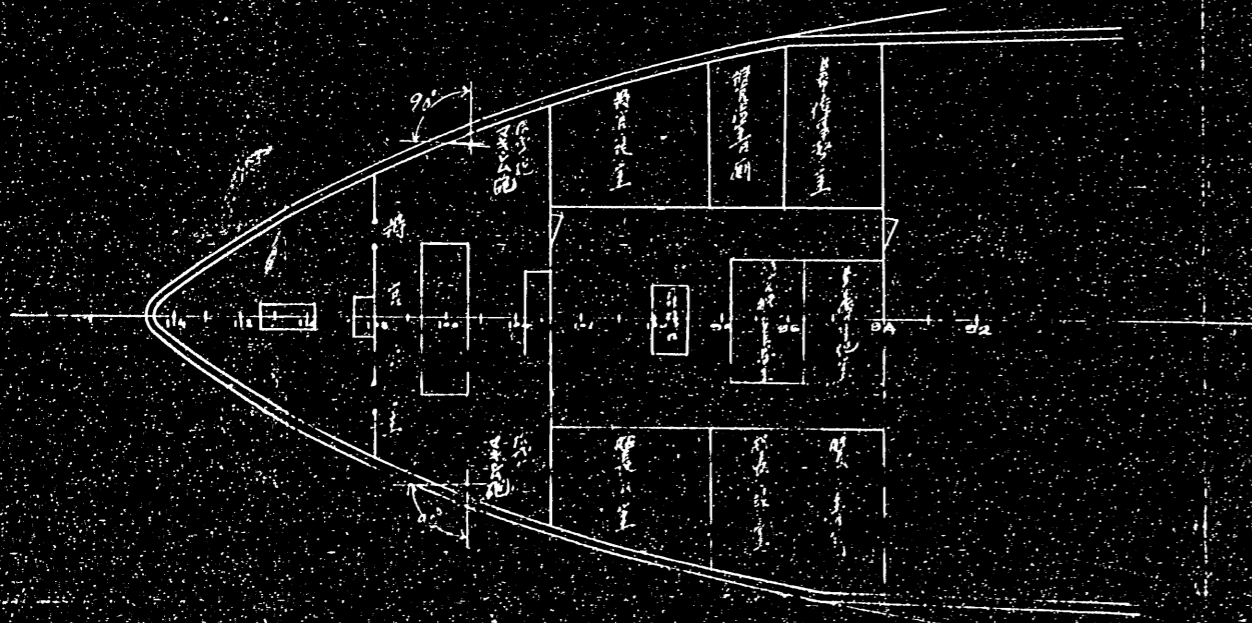
上甲板平面







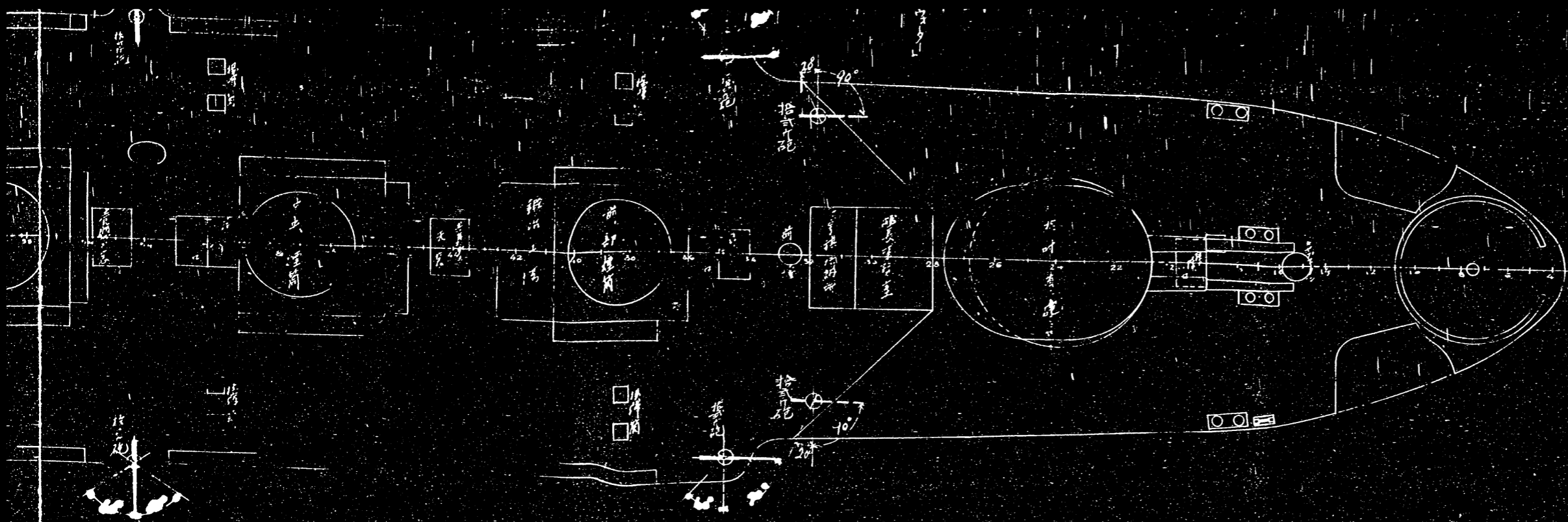
中甲板平面



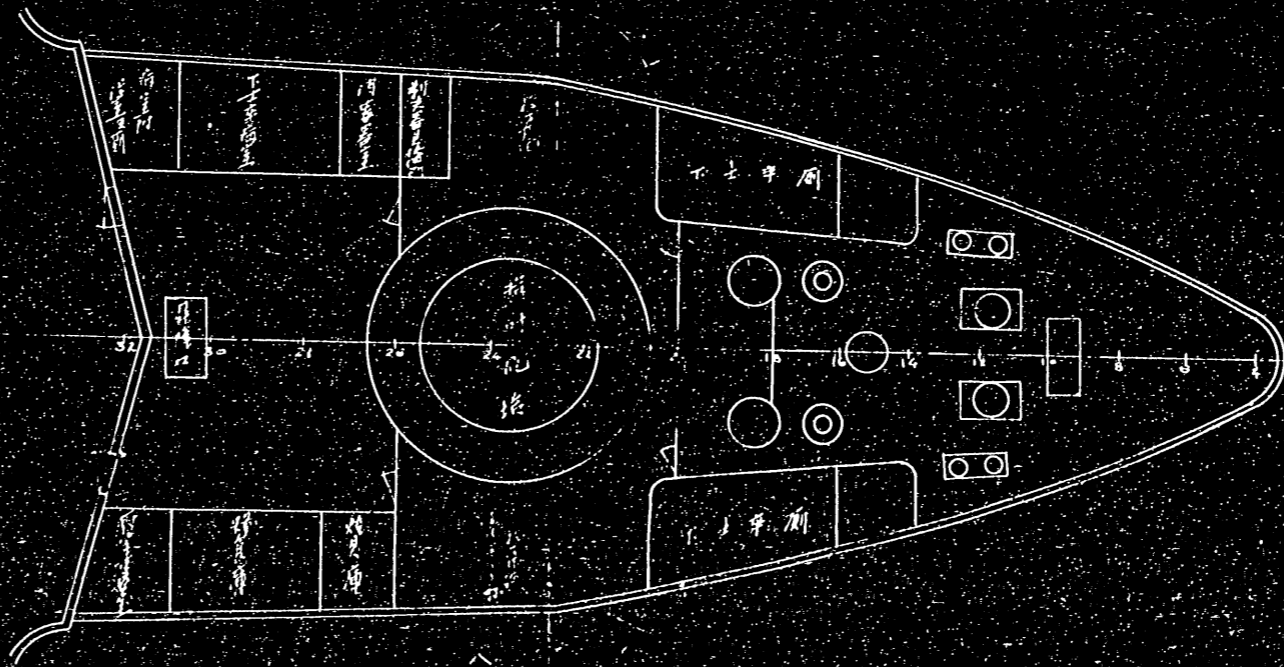
# 初最上甲板平面圖

一 主線、新設ラ、不  
 主断線、位置変更、  
 舊線、取除

八度拾六分、電時電天トス、



上甲板平面





# 軍艦周防最上甲板平面圖



1043

山形抄

軍令部長

次官

第一班

第二班

第三班

第一部長

山島

部員

第二部長

第三部長

山田

山田

山田

山田

山田

副官

國家參事官

山田

山田

山田

山田

大臣

次官

國務局長

山田

山田

山田

總理局長

山田

山田

山田

山田

山田

主任

明治四十二年四月三十日

仰裁

官房第一六八の號

1044

一歩子進ノチ  
二ノチ進ノチ  
三ノチ進ノチ  
四ノチ進ノチ  
五ノチ進ノチ  
六ノチ進ノチ  
七ノチ進ノチ  
八ノチ進ノチ  
九ノチ進ノチ  
十ノチ進ノチ

山崎

1040

1044

理由  
 一、...  
 二、...  
 三、...  
 四、...

山崎

1045

新造艦ニ搭載スル五口径至四口径速射砲ヲ四

口径至十二口径速射砲ニ改メ度件

是義ヲ艦型調査委員会、決議ニ基キ五口径至

四口径速射砲ヲ新造艦ニ採用、計畫書ニ別番、如

ク該砲、設計ヲ為サシメタルニ今之レヲ四口径至十二

口径速射砲ト對比スルニ大ナル優點ヲ認め、其細

目別法附表、如シ而シテ新砲、採用ニ兵部経

濟其他、點ニ於テ不利ナル點多キヲ以テ著大、利

益アルニ非サレハ成ルヘリ之ヲ避クニテ可トス依テ後表、

計畫書中ニアル五口径至四口径速射砲ハ之ヲ四口径至十

二口径速射砲ニ改メ可然哉仰高裁候也

別番四葉別表ニ添テ

(附記) 本案裁法ノ結果ハ、五口径戰艦以下補充元祿艦費製造諸航

ニ於テ多ク設計通ノ変更ヲ要ス

軍令部長

次長

第一

第二

第三

第四

明治三十一年五月十二日起案

起案者

捺印

五月十日

捺印

捺印

捺印

捺印

捺印

提案

總政部長

第一部

第二

第三

第四

大臣

次官

副

第三部

會計課

第四

第五

第六

第七

軍務局長

局員

第八

第九

經理局長

第十

第十一

第十二

第十三

訓令案

明治四十一年五月二十日

大臣

舞鎮長官宛

官房第一八七四號

舞鎮

1047

鹿島探海電燈換装ニ付

客年六月官房第二四二六號ノニヨリ以テ軍

艦鹿島現装備七十五冊探海電燈四基ヲシ

ツケルトモ九十冊手働探海電燈四基ト換装方

兵鎮守府司令長官及訓令通支前訓令

候屬本艦行動ノ都合ニ依リ右換装方其

府ニ於テ取計フヘシ

但シ此際ハ前艦橋ノ貳基ヲ換装スルコト

トシ要スル費用及工事方案取調ト申付

許ラヌクヘシ

右訓令ス

(終)

官房第六七〇號三

明治四十一年五月二十日 大臣

兵鎮長官

探海電燈換装に伴

客軍六月官房第六二四二六號ヲ以テ軍艦

席島搭載探海電燈換装方及訓令置付

本艦行動、却令依リ舞鶴鎮守府ニ於テ

換装、奉ニ同府長官、訓令ニ奉答心得

一

(送)

海軍

電氣

無茶部

第一  
第三

官房第一八七四號

濟

中

櫻井

副官

○

三月一日推

月

○

年四月三十日

吳海軍工廠長北古賀竹二郎

○

海軍大臣野崎齋藤實殿

軍務省庶務課海軍燈塔表方之件

查本年官房第一二四二六部訓令係以軍務省

島根海軍燈塔表方之件

入費概算及重量増減別紙調書一通仰認

計相成度

如上申下

海軍

○



砲煩  
砲煩計  
砲工務

出中  
心



軍令部長



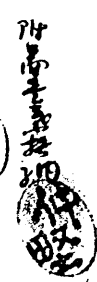
次長



第一部長



製圖室  
金田



1051

10-21

10-28  
1030K

艦政本部長  
相本



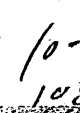
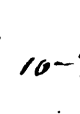
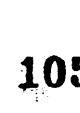
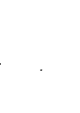
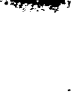
第一部長



第三部長



部員



副官



參事官

發信稿  
土



大臣

次官



甲午十月廿二起案



軍務局長



局員



經理局長



主任局員



提



昭和甲午十月廿二日  
海軍大臣  
橫濱司令長友光

書房第二五三八號之三

海軍大臣



軍艦武形備砲位置一併

（据付）

軍艦武形備砲換装方寸年古月官房方寸五二八

号方寸訓令方寸各砲据付位置及發射角度

別号軍艦方寸上甲板平面圖上同様、改方寸

右訓令

（別号回面一板後）

（終）

軍令部長 尾

次長

第三部長

艦政本部長

第一部長

副官

吉

藤

參事官

大臣

星 上 月 六 日 起 案

次官

丸

軍務局長

經理局長 代

局員

明治三十二年六月十日 海軍大臣

横濱 司令長官 宛

官房第 二五三八 號

第一班  
第二班  
第三班

官 七 三 二

重 増 減 表

1053

軍艦外藏備砲換裝著作

軍艦外藏備砲換裝及船體部改造新設

別紙通工事施行也之云々

海軍省常務委員日造兵及修

右紙

別紙(海軍省)

符と配付

1055 1054

海軍省

右記各案

別紙各案

特配付

軍艦出廠備砲換裝等件  
軍艦出廠備砲換裝及水體部改造新設  
別紙通工事施行也之云々

右記各案

別紙各案

特配付

1055 1054

訓令別紙

一、三九年二月横廠第三号之三上申工事方案内

五、製國室兼技手公室兼寢室新設

六、寢室<sup>室</sup>新設

七、浴室新設

八、測量器具格納所新設

三、消毒器室入口移動及消毒室電燈附換

三、無線電信室出入口移動

三、後部十七号砲門廢止

二、三九年六月横廠第三号之三提出工事方案、

砲台備砲換裝及船体部改造ノ下

但砲門、現在係<sup>レ</sup>モ<sup>レ</sup>裝帆、現在有形係在置

斗橫帆<sup>モ</sup>屬<sup>ス</sup>モ<sup>レ</sup>、老朽用<sup>ハ</sup>場<sup>ノ</sup>サ<sup>レ</sup>ニ<sup>シ</sup>テ<sup>モ</sup>撤去

袋帆<sup>ニ</sup>モ<sup>テ</sup>、<sup>レ</sup>除<sup>ク</sup>、<sup>レ</sup>又<sup>ハ</sup>砲門<sup>ノ</sup>改<sup>造</sup>、<sup>ハ</sup>此<sup>ノ</sup>儀

本

終

(瀬味納)

1057

伊五

覽

第一部長

第三部長

軍務局長

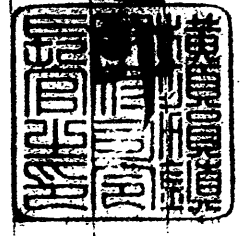
機密 三三五號三

會計課長

報告

官房第六五五號及合第八六九號ニテ照會並ニ  
訓令相成候軍艦出陣兵装替工事方按入費  
概算直量増減及工事同教別紙方按並ニ  
増減表通リ有之矣余此段及報告矣也  
明治三十九年六月十三日

横須賀鎮守府司令官代理  
海軍中將伊東義典



海軍大臣齋藤實殿

海軍

東京三浦印行

6-20

1058



軍艦才衛大祀備裝替迄是部工事方概

亮才十七冊祀以下従東備付ノ大祀全部ヲ撤去ス

露才十三斤陸射祀系、四於七密米山内輕陸射祀

四内并ヲ据付露才於此所祀用自御空為即有老個

ヲ撤去也又

一、亮才十七冊祀以下大祀全部撤去

入費概算、以上百七於吉田備於

金百九於此田此於解

工費

金四於此田此於解

材料費

金六於此田此於解

附屬費

一、露才十三斤陸射祀、四於七密米山内輕陸射祀、四

不据付

入骨概兼金五石於古田老解老所

金百石於古田自立於解

工費

金百石於古田自立於解

材料費

金七石於古田八解老所

附屬費

二露石十石所用之御空氣即為老田製也

入骨概兼金六石於古田九於解七厘

金百石於古田九於解

工費

金於古田七於六解八厘

材料費

金八石於古田九厘

附屬費

金百石於古田九於解老所

金百石於古田九於解

工費

金百石於古田七於五解八厘

材料費

金百石於古田九於五解老所

附屬費

右

全付工事日数

以於八日間

明治廿九年三月廿二日

横濱塙工廠造営部長種子田右八郎



海

軍

1061

軍艦武蔵改造工事方策 (造船部)

船樓後部延長シテ其下ヲ兵負室ニ充テ中

甲板兵負室及大薬庫ノ一部ヲ右舷庫ニ改造シ

左舷庫付大砲全部ヲ廢シ十二所砲四門ヲ上甲

板前部砲門及上舷右舷砲門ニ四十七ミリ砲四門ヲ前

後部艦橋上ニ備装ス事ヲ圖之通リ

右工事概算金五千五百九拾萬圓也

内

工費金貳千貳百圓也

材料費金貳千五百圓也

附属費金八百九拾萬圓也

工事日子 四拾日也

毎

圓

但右ハ上甲板上ノ砲門ハ現在ノ俣トシテノ豫算ニシテ  
射角ヲ大ニスル為メ便宜ノ處迄切開スル時ハ此工事  
概算金九ノ通ニテ

金六千九百七十圓也

内

工費金貳千七百圓也

材料費金貳千六百圓也

附屬費金千〇七圓也

工事日子 四十五日間

右ノ通

明治三十九年六月 日

横濱海軍工廠造船部長松尾鶴太郎 松尾

加川 納

佐藤源博

筆行武尾備砲変更字ニ関スル中概算  
 計画図等却日上申ス旨不日回送シテお取  
 存右計画図概算ニ上申板上砲門(十三斤  
 砲門)ヲ砲車ノ後トシテ射角ヲ大ニスル  
 便宜ニ圖所ニ切テ開シテトトニツリ記入  
 何レニモ概算ニ又概算ニテ比シ少  
 シ高價トシテ喜見スルニ難計トナル事  
 本製古銃ニ故取見スルアル事  
 向後各事ニ合置スル旨取為念  
 留美スル  
 此中

昭和廿九年十月九日

佐波枝師殿

東京大枝士

1065

第三部長  
第一部長

機密第一二三號三六ノ六

明治四十一年五月廿九日

松本横濱海軍工廠長

男爵 海軍艦政本部長殿

船本第二〇四彈照會軍艦武藏兵装

核及船本部改造新設對入費概算  
二昨午提出通りニテ差支之ヲ又永体部

本年度一般修理配付豫算内ニテ支辨

艦本等

東京三浦印行





六七四號改造費用トシテ工費材料費合計  
 約金六百貳拾餘ヲ要シ右ハ既配付豫算  
 内ニテ支辨可致候得共一昨年横鎮等三  
 二五號報告ノ費用ハ備誌費不足ニ付別  
 所配付ツ得度又後段御申越依別紙六  
 裝校並石炭庫新設圖(29.2)送付ス  
 右回添ス

図面を添付

終

豫算 電氣 砲熳

艦本部長

第一部長

第二部長

第三部長

第四部長

第五部長

第六部長

第七部長

第八部長

第九部長

會計課長

昭和二年五月十日

部長

横之廠長

軍艦部兵装換等之調査

軍艦部兵装換及船中改造新設

左記の通り調査可成り旨の旨に入費

豫算其当時提出の通り三年度更に調査せしむ又本年

第一艦修理船分艦内より支弁差支り等も第...

1063 1068

砲城 電氣 豫算

艦政本部長

第一部長

第二部長

會計課長

福田

部員

田中

田中

田中

F-15-A

昭和十一年九月

技師長

横之庭長

軍艦式礼兵装換事圖案仰

軍艦式礼兵装換及水師中隊送新設

左記(海)中隊送新設(海)中隊送新設

海軍省(海)中隊送新設(海)中隊送新設

海軍省(海)中隊送新設(海)中隊送新設

二〇〇四

1068 1068





官房第六五五号

軍艦武蔵の警備艦兼測量艦に適宜修改造の内  
議有し其其兵器ヲ左如ク改メ装帆ハ必要ナシ縦  
帆モ存シ其他ヲ撤去シ之ニ依テ輕減スルニ重量ヲ以  
テ心算シ倉庫其他ノ増設及載炭量ノ増加ニ要スル  
設備ヲ行フコトニ改造計畫ヲナシ工部方案  
ノ要概義及工事日數等ハ兩欄ニ差出ス成各  
ノ所及照會スル

明治三十九年正月廿七日

海軍次官

技師司令長友平



先

軍部部長

次長

第一部長

艦政部長

第一部長

第三部長

第二部長

會計部長

副官

參事官

大臣

次官

三月九日三月十二日起案

三十三

訓令案

軍務局改定仲官房第七三三号ノ一

信房第八六九號

經理局長

局員

局員

局員

局員

軍務局長

局員

局員

局員

1074

製圖室

三十三

抄





軍令部長

用長

第一班

第二班

印

印

印

印

艦政本部長

印

會計課長

第一部長

第二部長

第三部長

印

印

製圖室

副官

印

印

印

參事官

印

發

印

印

大臣

三九年二月廿二日起案

印

次官

印

軍務局長

印

局員

印

印

印

經理局長

印

主任局員

印

印

印

指令案

横廠第二号ノ二軍艦武術測量艦ニ付

第七三二號

1076

2.28

装、件、左、六、庫、限、り、認、許、ス

昭、和、三、年、九、月、三、日、の、

工、事、方、案、中

一、ウ、サ、ド、ウ、ス、基、礎、新、設

三、ウ、サ、ン、チ、基、礎、新、設

四、測、量、艇、上、降、用、テ、リ、ク、新、設

十四、現、在、キ、ヤ、プ、ス、シ、テ、廢、る、事

十五、測、量、艇、二、隻、ヲ、搭、載、る、為、メ、ス、キ、ワ、ト、ビ、ム、ヲ

設、シ、ク、ラ、ツ、チ、ヲ、備、フ、ル、事

但、工、事、に、成、ル、ハ、ウ、簡、易、ナ、ル、方、法、ヲ、以、テ

費、ヲ、省、略、ス、ル、様、ヲ、ス

十七、ギ、ツ、グ、及、ホ、ウ、エ、ン、ボ、ー、ト、ヲ、廢、る、事

1077

本、照、理、費

ム	ラ								
---	---	--	--	--	--	--	--	--	--

1077

彦照

本文ニ要スル費用九千六百七拾貳円  
 ニシテ右ハ軍事情費造船及修  
 理費ヲ以テ支弁ノ旨

1078

軍務局

第... 号...

横濱第二號

二月十四日



軍艦武蔵ヲ測量船ニ改装スル儀上申  
寫之由テ請示スル旨ニ御調ヒ申上ル事  
余至子施行ノ旨ハ許可申上ル事  
重要増城表及水深計表上申ノ旨  
明治三十九年三月...

横濱海軍工廠長 伊東義...



海軍大臣 齋藤實殿

第... 三二號



三吉

武蔵善光一五年

新法修理并新設請求

為持之由新設請求施行申付取及  
請求書

明治二十九年七月二日

山田武蔵修書

伊東總江野海軍之屬也

新設請求書

一山井トラス

吾國

理由左程側量艦トシヨロヒセハ  
及人力トシテハ揚船等ノ甚クハ  
費スルナリ

この測量上必要なり

不三 燈塔

港の所

理由 左燈塔の測量する場合尤も必要なり  
右燈塔の測量の場合尤も必要なり

新設の要あり

三 六エシチ

一 個

理由 測量燈塔卸に必要なり 大橋測量の  
新設の要あり

新設の要あり

四 テリツク

一 個

理由 測量の  
新設の要あり

五 測量図

一 図

理由 測量図の必要あり 且目下左燈塔の  
測量の必要あり 右燈塔の測量の必要あり

加  
其  
紙





軍艦武蔵ノ測量艀改装工事之按

一、ウ井ンドラス 主層艀新設

合掌捕艀「タコマ」艀ノ「ウ井ンドラス」ヲ「キャプスタン」共充  
用シ別國ノ如ク上甲板前部七十四番、七十八番肋骨間、  
昇降口ノ處ニ其位置ニ據付ク

工事概算

材料費金五百九拾五圓

工費金九百九拾五圓

重量 増六噸七五

二、艀移動

現在、後部艀及海圖室ヲ廢シ前部ニ新

設し海圖室并「ホ井」ルハウ「」ヲ揚上ニ新設ス

工事概算

材料費金四千九百五拾圓

工費金四千六百七拾圓

産量 増 壹噸 參

三、  
「ウ井」ニテ 壹基 新設

今手補給「タコ」ヲ「ウ井」ニテ充用し上甲板

機械室天窓ノ後方ニ備付ク

工事概算

材料費金五百四拾五圓

工費金七百八拾五圓

産量 増 參 噸 四

四、測量艇上降「用」テリ「」ニ新設

加川 船

拿捕船「タコマ」號ノ「テリツク」建造ヲ充用シ之ヲ大  
橋造方ニ取付ク

工事概算

材料費金壹千貳百八拾圓

工費金八百八拾五圓

重畳 増。卅五四

五、

報國堂兼技手公室兼寢室新設

上甲板右舷後部倉庫に室の造方、報國堂兼技手

公室兼寢室(四畳)ヲ新設シ室四、技手六人

倉庫、腰掛戸棚及四人ノ寢甚(三重甚)ヲ設備シ

羽目ニガラス窓及天窓(丸形窓)ヲ設ク

工事概算

材料費金九百七拾圓

延可六

寢室新設

工費金壹千九拾圓

上甲板に左舷に毒蓋を、右舷に測量班長寢室

(土庫寢室の板) 及扶手寢室(或人分)ヲ新設ス

工事概算

材料費金九百八拾五圓

工費金八百八拾五圓

延可七

浴室新設

寢室の傍に浴室ヲ設ケ兼テ洗面ノ装置ヲス

工事概算

材料費金七百拾五圓

工費金五百四拾五圓

延可八

測量器具格納所新設

加川 紙

浴室、后方之測量、蓋具、於此所ノ設ク

工事概算

材料費金四百五拾五圓

工費金六百五圓

重量 第五、六、七、八項合計増 九噸

九

前橋及後橋ノ廢ス

工事概算

材料費金百七拾圓

工費金六百五圓

重量 減五噸八

不拾

搬取車ノ新設前橋上「ホ井」ルハウズニ移動  
之搬取網ノ延長ス

工事概算

拾壹

士官室天窓新設

艦取車取除キ海ニ士官室天窓ヲ新設ス

工事概算

材料費金百七拾五圓

工費金四百九拾五圓

重量 増。噸五

拾貳

消毒室為室入口移動及増毒室扉換

寢室其他新設ニ付出入口前方移動ニ隨テ増

毒室ノ扉身換ヲ要ス

工事概算

定可拾五

材料費金貳百〇四圓  
工費金貳百〇拾六圓  
信屋心合リ前口板ノ理由ニテ前口板動ス  
工事概算

可拾四

現在ノ「キヤフスタ」ノ廢スル事  
材料費金百〇五圓  
工費金百〇拾六圓  
工事概算

心拾五

測量機二隻ヲ搭載スル為メ「スキムビーム」ヲ  
設ク「クラッチ」ヲ備フル事  
材料費金百〇拾六圓  
工費金百〇拾六圓  
重量 減産

工事概算

材料費金六千四百六拾圓

工費金九千八百五拾圓

重量 増 四噸八八

迄  
拾六

后部十七姆砲及日砲門ヲ廢スル事  
智國屋其他形改メ后部十七姆砲ヲ廢ス

工事概算

材料費金百〇五圓

工費金百拾九圓

重量 減 拾五噸八

拾七

「キツク」及「ホウエールポート」ノ廢スル事

工事概算

材料費金五圓



加川 納

工賃金六拾八圓

重量 減 各々 壹七

入費概算合計金貳万九千叁百四拾六圓

内 材料費金壹万五千四拾八圓

内 工賃金壹万四千叁百四圓

工事日子 八十日間

右

昭和三年二月十日

横須賀海軍工廠造船部長松尾鶴太郎 兼 兼部

海軍